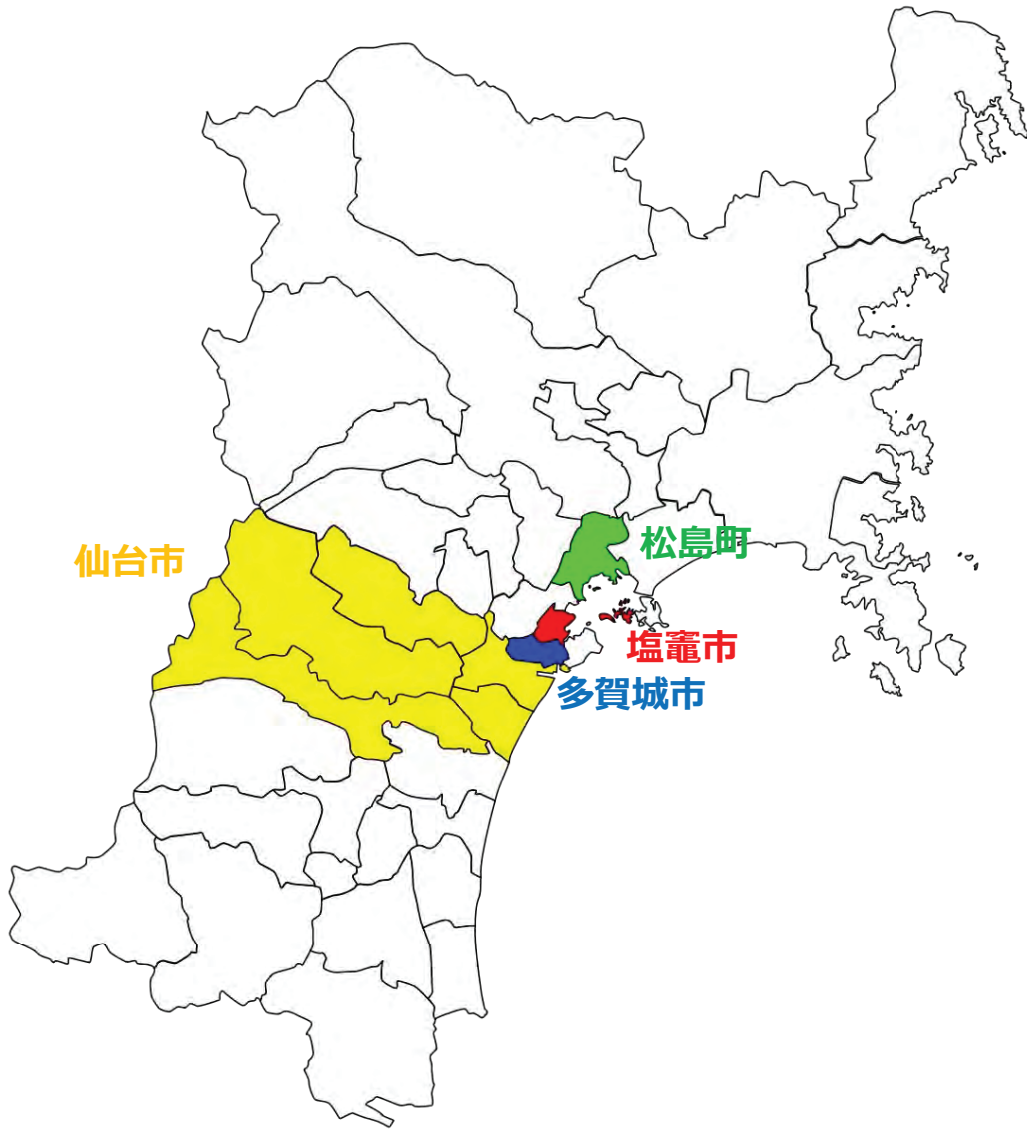


① 申請者	◎宮城県（仙台市・塩竈市・多賀城市・松島町）	② タイプ	地域型 / シリアル型 A B C D E
③ タイトル			
政宗が育んだ“伊達”な文化			
④ ストーリーの概要（200字程度）			
<p>仙台藩を築いた伊達政宗は、戦国大名として政治・軍事面での活躍は広く知られるところであるが、時代を代表する文化人でもあり、文化的にも上方に負けない気概で、自らの“都”仙台を創りあげようとした。</p> <p>政宗は、その気概をもって、古代以来東北の地に根付いてきた文化の再興・再生を目指す中で、伊達家で育まれた伝統的な文化を土台に、上方の桃山文化の影響を受けた豪華絢爛、政宗の個性ともいうべき意表を突く粋な斬新さ、さらには海外の文化に触発された国際性、といった時代の息吹を汲み取りながら、これまでにない新しい“伊達”な文化を仙台の地に華開かせていった。</p> <p>そして、その文化は政宗だけに留まらず、時代を重ねるにつれ、後の藩主に、さらには仙台から全国へ、そして武士から庶民にまで、さまざまな方面へ広がり、定着し、熟成を加えていった。</p>			

市町村の位置図（地図等）



宮城県

塩竈市拡大図





多賀城市拡大図



松島町拡大図

仙台市郊外拡大図



ストーリー

◎伊達政宗と仙台藩の文化

仙台藩を築いた伊達政宗は、戦国大名として政治・軍事面での活躍は広く知られるところであるが、時代を代表する文化人でもあり、文化的にも上方に負けない気概で、自らの“都”仙台を創りあげようとした。政宗はその気概をもって、古代以来東北の地に根付いてきた文化の再興・再生を目指す中で、伊達家で育ま



【政宗所用の南蛮服飾の陣羽織】

れた伝統的な文化を土台に、上方の桃山文化の影響を受けた豪華絢爛、政宗の個性ともいべき意表を突く粋な斬新さ、さらには海外の文化に触発された国際性、といった時代の息吹を汲み取りながら、新しい“伊達”な文化を仙台の地に華開かせていった。

そして、その文化は政宗だけに留まらず、時代を重ねるにつれ、後の藩主に、さらには仙台から全国へ、そして武士から庶民にまで、さまざまな方面へ広がり、定着し、熟成を加えていった。



【政宗所用と伝えられる黒漆の甲冑】

◎政宗による文化の確立

伊達政宗は、政治の拠点として新たに仙台北城を築くにあたり、これまでの伝統を重視する姿勢を見せた。仙台は古代陸奥国府の所在地である宮城郡に位置することもあり、この地の名所・旧跡の再興と再生に力を尽くした。奈良時代の陸奥国分寺跡に薬師堂を建立し、平安時代



【政宗が松島に建てた瑞巖寺】

の坂上田村麻呂ゆかりの、さらには室町時代の奥州探題大崎氏崇敬の大崎八幡宮を仙台に移転させ、鎌倉時代以来陸奥国随

一の名刹と称された松島円福寺を瑞巖円福禅寺として再興した。その際に、畿内から当代一流の技術者を呼び寄せ、手の込んだ彫刻や極彩色からなる装飾性豊かな建造物や、金地に色彩豊かな濃絵で描かれた豪華絢爛な障壁画といった、桃山文化の豪壮華麗な手法を取り入れた。

一方で、伝統的な水墨画の世界も同時に取り入れている点に特徴がある。また具足や衣装などにも、斬新な美意識が徹底されている。

さらに南蛮文化の影響も受け、西洋世界への関心の高まりもみられる。政宗の文化的素養は、和歌や連歌、茶の湯、能楽、香といった伝統的な文化にも発揮された。これらは伊達家伝来の学を通して身につけられ、当代一流の文化人との交流の中で、磨かれていった。

◎政宗以後の文化の広まり

伊達政宗が築き上げた新しい文化は、その後さまざまな方面への広がりを見せ、より一層熟成されていった。その文化は、現在の宮城に暮らす人々の生活の中にも深く根付いている。



【豪華絢爛な桃山建築、大崎八幡宮】



【内部の厨子が豪華な圓通院霊屋】

・時代を越えた広がり

政宗の文化に対する姿勢は、二代忠宗、三代綱宗、四代綱村、五代吉村と、次代の藩主たちにも受け継がれ、さらに深化、発展を遂げていった。忠宗の手による東照宮、瑞鳳殿、圓通院霊屋、綱宗による陽徳院霊屋、綱村から吉村の手による鹽竈神社などの建造物には、政宗の志向した豪華絢爛さがうかがえる。

・全国への広がり

都の文化にあこがれた政宗であるが、それとは反対に都人たちは、古来遠いみちのくをあこがれの地として数多くの歌枕を詠んでいることから、領内にある松島や木の下など宮城郡内の歌枕の地に御仮屋を建て、酒宴を楽しんだ。政宗の歌枕への深い造詣は、忠宗や綱村による、古典の研究や名所旧跡の調査に引き継

がれ、藩を挙げて歌枕の地の再発見と整備、保護に取り組んだ。これらの成果が江戸にも伝わり、松尾芭蕉は歌枕の地を自らの目で確かめようと、松島をはじめ、壺

碑、末の松山、興井、籬島、榴ヶ岡、薬師堂などの歌枕の地を訪れ、その様子を『おくのほそ道』で紹介した。これがさらに大きな影響をおよぼし、仙台藩内の歌枕はますます全国へ広まっていった。

・庶民への広がり

政宗が築き上げた文化は、仙台北城下の町人や職人など幅広い階層の人々に広がっていった。仙台藩とのつながりの深い民俗芸能が、仙台北城下で上演され、藩の保護・制約のもとで演じられた。大崎八幡宮の社人が例祭に行っ

た神楽、八幡宮別当が関わっていた盆の鹿踊・剣舞、正月の城下の賑わいに華を添えた田植踊などの民俗芸能は、旧仙台北城下、及びその近郊の庶民等がその命脈を伝えている。また仙台北城下が最も賑わった東照宮例祭の仙台祭は、伊達政宗をまつる青葉神社の例祭に行われる、仙台・青葉まつりに受け継がれている。

仙台藩の御用を務めた御職人たちが担っていた工芸品は、仙台北城下の職人に引き継がれ、仙台平や仙台御筆、堤焼、仙台張子、仙台箆笥などへと広がっていき、今日でも伝統工芸品として生き続けている。



【四～五代にわたって建立した鹽竈神社】



【芭蕉の旅の目的地のひとつ松島】



【歌枕「壺碑」としても名高い多賀城碑】

いた盆の鹿踊・剣舞、正月の城下の賑わいに華を添えた田植踊などの民俗芸能は、旧仙台北城下、及びその近郊の庶民等がその命脈を伝えている。また仙台北城下が最も賑わった東照宮例祭の仙台祭は、伊達政宗をまつる青葉神社の例祭に行われる、仙台・



【江戸時代からの伝統工芸品 仙台張子】



【現在にも伝えられる秋保の田植踊】

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
◎伊達政宗と仙台藩の文化				
①	くろうるしごまいどうぐそく かぶと 黒漆五枚胴具足 兜・ こぐそくつき 小具足付 (伊達政宗所用)	国重文	政宗が愛用した具足で、鉄地黒漆塗りの重厚な甲冑、頑丈な筋兜、細く長い弦月形をした金箔押し前立は、政宗が志向した重厚かつ華麗な伊達な文化を端的に表す。	仙台市 仙台市博物館
②	せんだいはんれきだいはんしゅしよよう 仙台藩歴代藩主所用 じんぼおり 陣羽織	国重文 市有形 (工芸品)	山形文陣羽織は伊達政宗所用で、当時流行の南蛮服飾。水玉模様陣羽織は紫色の地に、五色の丸を配した華やかな意匠。孔雀羽根陣羽織は七代藩主重村所用とされ、孔雀羽根を使用した豪華な陣羽織。	仙台市 仙台市博物館
③	せんだいはんれきだいはんしゅぼしよしゆつどひん 仙台藩歴代藩主墓所出土品	市有形 (工芸品) 未指定	政宗が晩年まで身の回りで愛用していた品々で、欧州産の金製ブローチや当時珍しかった鉛筆等から、教養人政宗の姿がしのばれる。また二代忠宗の武具類、三代綱宗の眼鏡、煙管などがある。	仙台市 仙台市博物館 瑞鳳殿
④	もくぞうだてまさむねいぞう 木造伊達政宗倚像	県有形 (彫刻)	政宗没後 16 年の承応元年 (1652) に制作され、現存する政宗像の中で最も写実的な作品といわれる。弦月形の金の前立を好んだ、独創性を持つ政宗の姿を表している。	松島町 瑞巖寺
◎政宗による文化の確立				
⑤	せんだいじょうあと 仙台城跡	国史跡	伊達氏の居城。政宗は中世霊場である青葉山に所在した寂光寺等の寺院を移転し、広大な本丸を中心とした近世城郭を造営した。また、当時、千代と呼ばれた、この地を仙台に改め、仙台藩における政治、文化の拠点とした。	仙台市 仙台市
⑥	せんだいじょうおよ え どかみやしき 仙台城 及び江戸上屋敷 しゆようたてもえすがたず 主要建物絵姿図	市有形 (歴史資料)	本丸大広間や懸造、御成門等の仙台城の主要な建物が描かれており、仙台藩政にとって重要な建物の様相を具体的にみる事ができる。	仙台市 仙台市博物館
⑦	せんだいじょうほんまるおおひろましようへきが 仙台城 本丸大広間障壁画 ほうおうず 鳳凰図	県有形 (絵画)	仙台城大広間の中枢を飾った、桃山期狩野派による濃絵。覇気に満ちた華やかな政宗の武将としての精神が表している。	松島町 松島町
⑧	せんだいじょう わかばやしじょう 仙台城・若林城 しようへきが に関わる障壁画	県有形 (絵画) 市有形	仙台城本丸大広間の扇面図は、銀切箔散地に開いた扇や中開きの扇等、大和絵の雅やかな画題を中心に描いている。また政宗が晩年をおくった若林城の遺品と推定される萩に鹿図・菊花図は、教養人としての政宗を雄弁に物語る。	仙台市 仙台市博物館

⑨	ずいがんじごだいどう 瑞巖寺五大堂	国重文	政宗が平安時代に創建された由緒ある堂を再建した。東北地方最古段階の桃山建築で、雄健な彫刻だが素木造の外観、対照的に奇巧をこらした家形厨子は伊達な文化を代表する。	松島町 瑞巖寺
⑩	おおさきはちまんぐう 大崎八幡宮	国宝	政宗による造営。現存最古の権現造りで、総漆塗、極彩色、飾金具による豪華で流麗な桃山様式の世界が広がる。政宗の志向を表わす、伊達な文化を最も代表する建造物。	仙台市 大崎八幡宮
⑪	むつこくぶんじやくしどう 陸奥国分寺薬師堂	国重文	古代以来の伝統ある陸奥国分寺の一角に、政宗が造営。内部の厨子は入母屋造、こけら葺で、壁画や扉は彫刻、金箔、飾金具で極彩色に装飾され、豪華絢爛な伊達な文化を表現する。	仙台市 陸奥国分寺
⑫	ずいがんじ 瑞巖寺 (本堂・庫裡及び廊下 ・障壁画)	国宝	政宗による造営。本堂外観は質素な和様であるが、内部の彫刻・彩色・金具、金地濃彩によって描かれる大小161画の襖絵障壁画は、仙台藩お抱え絵師によって描かれる。庫裡の豪華な妻飾りや廊下の構成美も、豪華絢爛たる伊達な文化の世界を表現している	松島町 瑞巖寺
⑬	けいちょうけんおうしせつかんけいしりょう 慶長遣欧使節関係資料	国宝・ユネスコ記憶遺産	政宗がイスパニア・ローマに派遣した使節が持ち帰った資料群。ローマ市民権証書や十字架、支倉常長肖像画等があり、政宗の海外志向を表す。	仙台市 仙台市博物館
⑭	こんよばんこくぜんず 坤輿万国全図	国重文	藩校養賢堂に伝わる世界地図で、藩の天文方が仙台にもたらしたとされる。仙台藩では、養賢堂を中心に海外の学問や文化の探求が盛んであった。	仙台市 宮城県図書館
⑮	伊達政宗わかえいそう 「入そめて」	市有形 (歴史資料)	仙台開府を果たした政宗が、仙台の末永い繁栄を願って、これまでの千代の文字を仙台に改め、千代に限定せずに無限の繁栄を期する、という意味の和歌で、仙台開府頃の政宗の仙台に対する思いを伝える。	仙台市 仙台市博物館
◎政宗以後の文化の広まり				
・時代を越えた広がり				
⑯	とうしょうぐう 東照宮	国重文	二代忠宗による建立。漆塗、金箔、七宝の金具等で装飾される。内陣も絢爛たる彫刻や飾金具、彩色が施された厨子が安置される。	仙台市 東照宮
⑰	きょうがみねだてけぼしよ 経ヶ峯伊達家墓所 ずいほうでんかんせんでんぜんのうでん 瑞鳳殿・感仙殿・善応殿 (再建)	市史跡	初代政宗、二代忠宗、三代綱宗の霊屋。瑞鳳殿は伊達の文化を伝える豪華絢爛な廟建築として国宝に指定されていた。三殿ともに戦災で焼失し、昭和に再建された。	仙台市 瑞鳳殿
⑱	やうとくいんおたまや 陽徳院霊屋	国重文	三代綱宗の建立による政宗夫人愛姫の霊屋。規模は小さいが黒漆塗、極彩色、飾金具により、政宗の瑞鳳殿に類する豪華さと優美さを誇る。	松島町 瑞巖寺
⑲	えんつういんおたまや 圓通院霊屋	国重文	二代忠宗の二男光宗の霊屋。内部の厨子に華麗な彩色模様が施され、政宗好み引き継がれている。	松島町 圓通院

⑳	しおがまじんじや 鹽竈神社	国重文	政宗以降伊達家の篤い崇敬を受け、歴代藩主が神社の「大神主」として祭事を司った。現社殿は四代綱村が元禄8年(1695)に着工し、五代吉村の宝永元年(1704)に完成した。	塩竈市 志波彦神社・ 鹽竈神社
㉑	せんだいはんれきだいはんしゅしょうぐそく 仙台藩歴代藩主所用具足	市有形 (工芸品)	政宗に始まる五枚胴具足を歴代藩主や家臣も踏襲し、政宗の文化が藩内に広く受け継がれている。	仙台市 仙台市博物館
㉒	ちやしやく せんだいはんれきだいはんしゅさく 茶杓 仙台藩歴代藩主作	市有形 (工芸品)	歴代藩主たちが茶道に深い関心を示したことがわかり、茶道が政宗以後、歴代藩主に受け継がれていったことを表す。	仙台市 仙台市博物館
㉓	しおがまじんじやれきだいはんしゅほうのう た ち 鹽竈神社歴代藩主奉納太刀	県有形 (工芸品)	藩主による鹽竈神社への太刀奉納は慣例で、治世の節目に行われた。いずれも華麗な糸巻太刀拵で、作刀は藩お抱えの刀工が行った。	塩竈市 志波彦神社・ 鹽竈神社
51	しょうがろう 勝画楼	市有形 (建造物)	仙台藩五代藩主伊達吉村が塩竈来訪時に使用した、懸造風の眺望を重視した書院建築です。歴代藩主が鹽竈神社参拝時に御休息所としても使用したもので、政宗が育んだ“伊達”な文化の壮麗さが、歴代藩主に継承されていた事を顕著に示すものです。	塩竈市
・全国への広がり				
㉔	かんらんてい しょうへきが 観瀾亭及び障壁画	国重文 県有形 (建造物)	歌枕松島を眺望する地に、藩主が宿泊、休憩する御仮屋の御殿として建てられたもの。襖の濃絵の障壁画は桃山時代の特徴を良く表している。	松島町 松島町
㉕	おくのほそ道の風景地 つゝじが岡及び 天神の御社	国名勝	古くから歌枕に詠まれた名所で、松尾芭蕉も「おくのほそ道」の中で、訪れたことを記し、その後多くの人々が訪れるようになった。	仙台市 仙台市
㉖	おくのほそ道の風景地 木の下及び薬師堂	国名勝	古くから歌枕に詠まれた名所で、松尾芭蕉も「おくのほそ道」の中で、訪れたことを記している。	仙台市 仙台市
㉗	たがじょうあとつきたりてらあと 多賀城跡 附 寺跡	国特別史跡	多賀城は古代律令国家が造営した陸奥国府。平安時代に都の貴族たちは、この地を「みちのく」の名であこがれ、国府の官人だけでなく、幾人もの歌人が歌を詠んでいる。	多賀城市 多賀城市
㉘	たがじょうひ 多賀城碑	国重文	陸奥国府、多賀城の修造を記した奈良時代の石碑で、二代忠宗の頃に発見された。水戸藩の徳川光圀の助言もあり、四代綱村が覆屋を建て保護した。	多賀城市 多賀城市
㉙	おくのほそ道の風景地 壺碑 (つぼの石ぶみ)	国名勝	「陸奥のおくゆかしくぞおもほゆる壺の碑外の浜風」(西行)に代表されるように、遠くみちのくにある歌枕として、多くの歌に詠まれている。芭蕉の「おくのほそ道」の旅の中で紹介して、さらに広く知られることとなる。	多賀城市 多賀城市
㉚	おくのほそ道の風景地 末の松山	国名勝	「ちぎりきな かたみにそでをしぼりつつ すゑの松山 なみこさじとは」(清原元輔)など、多くの歌に詠まれ、歌枕の地として有名。	多賀城市 多賀城市

③①	おくのほそ道の風景地 興井 <small>おきのい</small>	国名勝	「わが袖は しほひにみえぬ おきの石の 人こそしらね かわくまぞなき」(二条院讃岐)など多くの歌に詠まれ、歌枕の地として有名。	多賀城市 多賀城市
③②	おくのほそ道の風景地 籬が島 <small>まがき しま</small>	国名勝	「わが背子を 都にやりて 塩竈のまがきの島の まつぞ恋しき」(よみ人しらず)など多くの歌に詠まれ歌枕の地として有名。	塩竈市 志波彦神社・ 鹽竈神社
③③	おしま 雄島	国特別名勝	「みせばやな 雄島のあまの 袖だにも 濡れにぞぬれし 色はかはらず」など多くの歌に詠まれた歌枕の地として有名。	松島町 松島町・瑞巖寺
③④	まつしま 松島	国特別名勝	平安時代以来、みちのくの歌枕として多くの歌に詠まれている。芭蕉が「おくのほそ道」の旅の中で紹介して以来、全国にその名が広まり、多くの文人が訪れるようになった。	塩竈市 松島町 塩竈市・松島町
③⑤	とみやまかんのどう ほんしょう 富山観音堂と梵鐘	国特別名勝 県有形 (工芸品)	政宗の長女五郎八姫が改修させた彩色豊かな建造物と寄進した梵鐘。芭蕉に同行した曾良も「曾良旅日記」の中で眺望の地として記している。	松島町 大仰寺
・庶民への広がり				
③⑥	おおさきはちまんぐう のうかぐら 大崎八幡宮の能神楽	県無形民俗	大崎地方から仙台北城下への移転に伴い、その頃、大崎領内で行われていた神楽を移伝したとされる。藩の扶持を受け、社人が演じた由緒をもつ。	仙台市 大崎八幡宮
③⑦	あきう たうえおどり 秋保の田植踊	国無形民俗・ユネスコ無形文化遺産	正月、仙台北城下で門付けしていたとされる3組(蕪・蟹・海老の田植組)のうち、蕪田植との関連が想定され、城下から庶民への広がりを表す。	仙台市 秋保の田植踊保存会(湯元・長袋・馬場の田植踊保存会)
③⑧	おおさわ たうえおどり 大沢の田植踊	県無形民俗	藩主から賞賛の言葉を賜り、早乙女が着用する振袖の裾に伊達の家紋にちなんだ竹に雀文の使用が許されたという伝承をもつ。	仙台市 大沢田植踊保存会
③⑨	かわまえしおどり けんばい 川前鹿踊・剣舞	県無形民俗	江戸時代中期までに八幡町から伝えられたという。藩から鹿踊の幌幕に絹布の使用を特に認められたという。	仙台市 川前の鹿踊・剣舞保存会
④⑩	ふくおか ししおどり けんばい 福岡の鹿踊・剣舞	県無形民俗	江戸時代前期に、仙台北城下八幡町で鹿踊・剣舞を管理していた大崎八幡宮別当寺から旧福岡村に伝えられた。	仙台市 福岡の鹿踊・剣舞保存会
④⑪	おおさきはちまんぐう まつたきまつり 大崎八幡宮の松焚祭 (どんと祭)	市無形民俗	江戸時代の仙台北城下では、正月の松飾りを大崎八幡宮で焼く「松焚祭」が行われていた。この行事が近代以降に「どんと祭」の名称と共に普及し、宮城の代表的な小正月行事となった。	仙台市 大崎八幡宮
④⑫	せんだいたなばた 仙台七夕	未指定	旧7月7日の節句だが、七代重村の頃は6日に飾り、7日朝に流した。明治以降、紙衣・巾着等の独特の飾りが定着するなど飾りが豪華になった。	仙台市 仙台七夕まつり協賛会
④⑬	しおがまじんじゃ ほ てまつり はなまつり 鹽竈神社帆手祭・花祭	未指定	藩の許可を得て始められた氏子の祭りであり、鳥居までは鹽竈神社、その外側は氏子が全責任を負う。重さ1トンの神輿は荒れ神輿として知られる。	塩竈市 志波彦神社・鹽竈神社、祭典委員会

④④	せんだい あおば 仙台・青葉まつり	未指定	二代忠宗が建立した東照宮の仙台祭の系譜を引き、多くの山車が仙台市内を練る。現在は政宗を祭る青葉神社例祭に合わせ、市民が実施する。	仙台市 青葉神社・仙台青葉まつり協賛会
④⑤	せんだいおふで 仙台御筆	県伝統工芸	筆製作は藩内の需要と産業振興を目的に政宗が大坂から職人を招いたのが始まり。品質の高い筆として知られる。	仙台市 大友毛筆店
④⑥	つつみやき 堤焼	県伝統工芸	仙台北城下の北に位置する杉山台で、茶道に通じた藩主の器等も製作された。後に堤町で甕や鉢などの、庶民の生活雑器も生産した。	仙台市 堤焼乾馬窯
④⑦	つつみにんぎょう 堤人形	県伝統工芸	四代綱村の頃、江戸の陶工を招いて堤町で製作され、歌舞伎の名場面を象った人形が特徴で、優美な彩色、洗練された形で、土人形の最高峰といわれる。	仙台市 芳賀堤人形製造所・つつみのおひなっこや
④⑧	せんだいひら 仙台平	国無形	堅牢で皺が付きにくく、藩主の贈答品にも使われた。今でも極上の袴の代名詞として晴れの舞台上で着用される。	仙台市 仙台平
④⑨	せんだいはりこ 仙台張子	県伝統工芸	仙台北城下で作られ、主流のダルマは目入りで青色、宝船や福神を腹部に立体的に表現したもので、絢爛たる縁起物として現代でも親しまれている。	仙台市 仙台張子の会
④⑩	せんだいたんす 仙台箆筒	国伝統工芸	江戸末期に藩お抱え大工等が製作を始めた。黒漆塗りの金具で装飾された華麗な箆筒。外国人にも好評で、明治から大正期には輸出もされた。	仙台市 仙台箆筒協同組合

(※1) 文化財の名称には適宜振り仮名を付けること。

(※2) 指定・未指定の別、文化財の分類を記載すること(例：国史跡、国重文(工芸品)、県史跡、県有形、市無形等)。

(※3) 各構成文化財について、ストーリーとの関連を簡潔に記載すること(単に文化財の説明にならないように注意すること)。

(※4) ストーリーのタイプがシリアル型の場合のみ、市町村名を記載すること(複数の都道府県にまたがる場合は都道府県名もあわせて記載すること)。

構成文化財の写真一覧

①黒漆五枚胴具足
兜・小具足付



②仙台藩歴代藩主所用陣羽織



③仙台藩歴代藩主墓所出土品



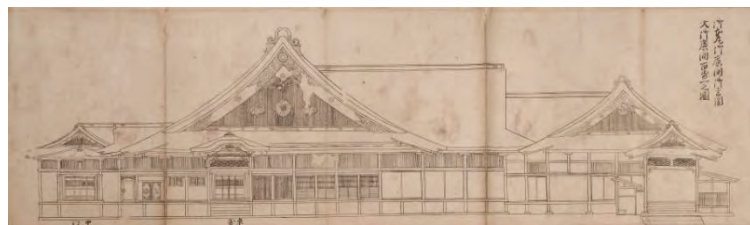
④木造伊達政宗倚像



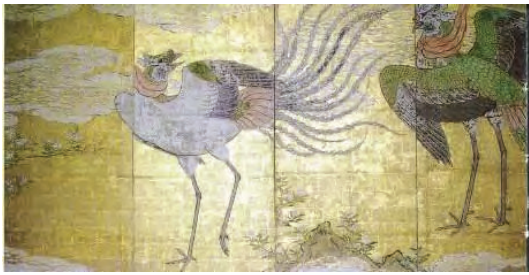
⑤仙台城跡



⑥仙台城及び江戸上屋敷主要建物絵姿図



⑦仙台城本丸大広間障壁画鳳凰図



⑧仙台城・若林城に関わる障壁画



⑨瑞巖寺五大堂



⑩大崎八幡宮



⑪陸奥国分寺薬師堂



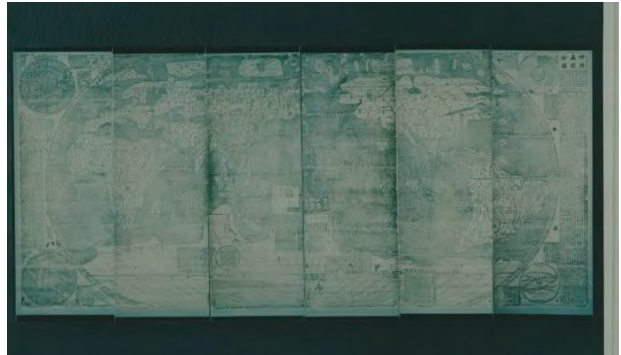
⑫瑞巖寺(本堂・庫裏及び廊下・障壁画)



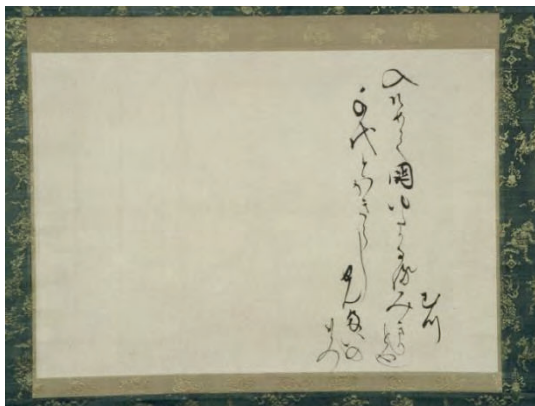
⑬慶長遣欧使節関係資料



⑭坤輿万国全図



⑮伊達政宗和歌詠草「入そめて」



⑯東照宮



⑰経ヶ峯伊達家墓所
瑞鳳殿・感仙殿・善応殿



⑱陽徳院霊屋



⑱圓通院靈屋



⑳鹽竈神社



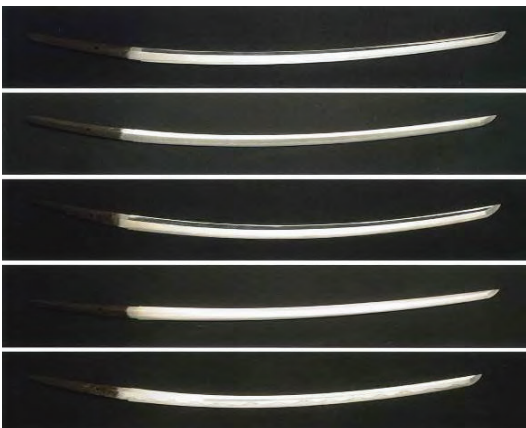
㉑仙台藩歴代藩主所用具足



㉒茶杓 仙台藩歴代藩主作



㉓鹽竈神社歴代藩主奉納太刀



㉔ 観瀾亭及び障壁画



㉕ おくのほそ道の風景地
つゝじが岡及び天神の御社



㉖ おくのほそ道の風景地
木の下及び薬師堂



㉗ 多賀城跡附寺跡



㉘ 多賀城碑



㉙ おくのほそ道の風景地
壺碑 (つぼの石ぶみ)



㉚ おくのほそ道の風景地
末の松山



③① おくのほそ道の風景地 興井



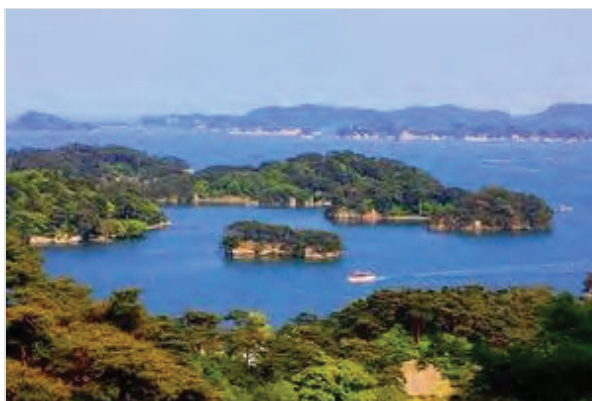
③② おくのほそ道の風景地 籬が島



③③ 雄島



③④ 松島



③⑤ 富山観音堂と梵鐘



③⑥ 大崎八幡宮の能神楽



③⑦秋保の田植踊



③⑧大沢の田植踊



③⑨川前鹿踊・剣舞



④⑩福岡の鹿踊・剣舞



④⑪大崎八幡宮の松焚祭



④⑫仙台七夕



④③ 鹽竈神社帆手祭・花祭



④④ 仙台
・青葉まつり



④⑤ 仙台御筆



④⑥ 堤焼



④⑦ 堤人形



④⑧ 仙台平



④9 仙台張子



⑤0 仙台箆筒



51 勝画楼



日本遺産を通じた地域活性化計画

認定番号	日本遺産のタイトル
19	政宗が育んだ“伊達”な文化

(1) 将来像 (ビジョン)

＜将来像＞

**伊達“DATE”といえば、みやぎの日本遺産だとわかる
—世界に誇れる歴史文化の豊かな地域—**

宮城県は初代仙台藩主・伊達政宗以来、江戸時代を通じて仙台藩伊達家が治め、今もゆかりの文化や文化財が多く残る。「伊達」や「政宗」という言葉が広くネーミングに用いられるなど、認定地域の中にも溶け込み、訴求力のある地域ブランドとなっている。

仙台藩伊達家に関わる文化は、伝統を重んじつつも豪華絢爛かつ斬新な「伊達な文化」である。構成文化財が所在するエリアは、仙台駅や仙台国際空港から1時間未満で到着し、首都圏や関西圏から概ね2時間で到着できるアクセスの良さを生かした観光地として認識される将来像を目指す。

認定地域の行政計画では、第6期みやぎ観光戦略プランにおける戦略プロジェクトの取組み、宮城県文化財保存活用大綱のほか、松島町長期総合計画、史跡仙台城跡整備基本計画等の個別計画で、文化財保護やまちづくりにおいて日本遺産を位置づけ、国内外へのPR、文化ツーリズムによる観光振興と地域活性化を図るよう示している。これらの計画における位置づけを踏まえて、およそ20～30年先にある認定地域の将来の姿として、以下3項目を目指していく。

【将来の姿1】

関係機関・民間団体・地域住民が連携して伊達な文化を国内外に発信し、旅行客が伊達な文化を体験できる仕組み・体制が整備されている。

【将来の姿2】

伊達な文化を味わう体験をするために地域に人が訪れ、伝統工芸品など地場産業の持続、飲食・宿泊施設の増加といった裾野が拡大することで、地域全体に恩恵が行き渡る。

【将来の姿3】

地域住民が地域の歴史文化に対して誇りを持ち、観光地としてのホスピタリティと文化財保護の意識が高く、寄付やボランティア等の社会貢献活動に繋がっている。

この将来像の実現に向け、認定地域をストーリーで結ぶ面的周遊ネットワークを形成する。周遊ルート上にはストーリーを紹介するガイダンスコーナーやガイドを配置し、解説板等で周辺にある構成文化財へ誘導する。このことで、観光客にストーリーを紹介する仕組みがつけられ、認定地域内に経済効果を拡大させることを目指す。

観光客は、認定地域の魅力的で多様なコンテンツが提示されることによって再訪問や周遊の意欲が沸き、特定のエリアの混雑を緩和して、ゆとりをもった体験ができるなど満足度の

向上にも繋がる。

(2) 地域活性化計画における目標

※各目標に対し、複数の指標を設定可

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること

指標①-A：日本遺産のストーリーを体験した来訪者の数

年度	実績					
	2022	2023	2024			
数値	3,680 千人	4,876 千人	4,354 千人			
年度	目標					
	2025	2026	2027	2028	2029	2030
数値	4,904 千人	4,918 千人	4,932 千人	4,946 千人	4,960 千人	4,974 千人
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	<p>代表的な構成文化財（仙台城跡・仙台市博物館・瑞鳳殿・鹽竈神社・多賀城跡・松島）の来訪者数を設定した。※統計値として各年度とも1月～12月までの値を年度実績としている。以下同様。宮城県第6期観光戦略プランでは、宮城県観光客宿泊者数を2023年度から2027年度までにおよそ1.17倍の目標値を設定している。これを参考に日本遺産を対象とした来訪者の増加を、2023年度の数値を基準に、前年度よりも毎年0.3%増加することを目標値に設定。</p>					

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること

指標①-B：日本遺産のストーリーについて理解・関心を深めた人の割合

年度	実績					
	2022	2023	2024			
数値	92%	97%	96%			
年度	目標					
	2025	2026	2027	2028	2029	2030
数値	90%	90%	90%	90%	90%	90%
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	<p>日本遺産見学ツアー及び体験イベント、講座の参加者、アンケートにおいて「理解できた」と答える人の割合が、90%以上であることを設定。</p>					

目標②：地域において日本遺産のストーリーが誇りに思われること

指標②－A：地域住民が、日本遺産があることに誇りを持っている割合						
年度	実績					
	2022	2023	2024			
数値	94%	92%	92%			
年度	目標					
	2025	2026	2027	2028	2029	2030
数値	90%	90%	90%	90%	90%	90%
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法		地域の小中学生や保護者を対象とした日本遺産見学ツアーと出前講座の参加者アンケートにおいて、「誇りに思う」と答える人の割合が、90%以上であることを目標値に設定。				

目標③：日本遺産を活用した事業により、経済効果が生じること						
指標③－A：構成文化財またはその関連資料所蔵施設の入館料収入の増加						
年度	実績					
	2022	2023	2024			
数値	-	15,934 千円	195,755 千円			
年度	目標					
	2025	2026	2027	2028	2029	2030
数値	65,000 千円	65,100 千円	65,200 千円	65,300 千円	65,400 千円	65,500 千円
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法		仙台市博物館、東北歴史博物館、観瀾亭、鹽竈神社博物館の入館料収入の合計を指標とした。東北歴史博物館は2024年度に多賀城創建1300年記念関連事業によって入館者特別増。仙台市博物館は、2022年度・2023年度休館。このため2023年度の実績に仙台市博物館の2024年度実績を加えて、2025年度目標値とし、以後前年度よりも増加することを目標値に設定。				

目標④：日本遺産のストーリー・構成文化財の持続的な保存・活用が行われること						
指標④－A：日本遺産構成文化財が活用可能な状態にある割合（%）						
年度	実績					
	2022	2023	2024			
数値	96%	96%	96%			
年度	目標					
	2025	2026	2027	2028	2029	2030
数値	90%	90%	90%	90%	90%	90%

指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	構成文化財 51 件の活用可能な状態にある状態を常時 90% に設定する。
---------------------	---------------------------------------

目標⑤：地域への経済効果も含め広く波及効果が生じること						
指標⑤－A：地域の外国人観光客数						
年度	実績					
	2022	2023	2024			
数値	6,725 人	38,013 人	45,429 人			
年度	目標					
	2025	2026	2027	2028	2029	2030
数値	45,565 人	45,701 人	45,838 人	45,975 人	46,112 人	46,250 人
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	<p>地域内の認定外国人案内所の利用者数をもとに設定した。宮城県第 6 期観光戦略プランでは、宮城県外国人観光客宿泊者数を 2023 年度から 2027 年度までにおよそ 2 倍の目標値を設定している。これに対応して地域内の認定外国人案内所の利用者数についても伸長すると思われるが、円安によるインバウンドの増加の継続性が不透明なことやスマートフォン等を活用して自分で調べて移動する旅行者もより増えることが予想されるため、2024 年度を基準として毎年 0.3% 増加することを目標値に設定。</p>					

目標⑤：地域への経済効果も含め広く波及効果が生じること						
指標⑤－B：認定地域の宿泊者数が毎年増加すること						
年度	実績					
	2022	2023	2024			
数値	5,501 千人	6,835 千人	6,662 千人			
年度	目標					
	2025	2026	2027	2028	2029	2030
数値	6,875 千人	6,895 千人	6,915 千人	6,935 千人	6,955 千人	6,975 千人
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	<p>宮城県第 6 期観光戦略プランでは、宮城県観光客宿泊者数を 2023 年度から 2027 年度までにおよそ 1.17 倍の目標値を設定している。認定地域である仙台市、塩竈市、多賀城市、松島町の宿泊観光客数もこれに連動して増加するとして、2023 年度の数値を基準に前年度よりも毎年 0.3% 増加することを目標値に設定。</p>					

(3) 地域活性化のための取組の概要

<将来像を踏まえた取組みの方向性>

これまで行ってきた日本遺産事業で、出前講座や文化財見学会で認知度向上に努め、地域に日本遺産があることについて誇りを育てることができた。また、ガイド養成講座を開催し、文化財群を日本遺産ストーリーという、面で見ると魅力が伝わる体制を整えた。ただし、認知度の面では地域内外において十分とは言えず、課題となっている。また、ガイドについては一部で有料ガイドを行っているものの、教育旅行プランや日本遺産をテーマとした旅行商品とのマッチングを促進する必要がある。

これからの取組みでは、これまでの成果を土台として観光地としてさらに充実した認定地域の将来の姿の実現を目指し、以下①～⑦の取組みを柱として重点的に行う。

① 組織整備（主なターゲット：行政・DMO・関係団体・民間企業・地域住民等）

【将来の姿1】の実現のため、実行委員会を中心として、地域の人材・団体と連携し、組織体制確立と役割明確化により各自の持ち味を活かした推進体制をつくる。

従来から地域振興や観光振興に向け、総合的な企画立案を行っている人材を日本遺産における地域プロデューサーとして、各地域で文化財のボランティアガイド等を行う人材を日本遺産における地域プレイヤーとして位置づけするなど、組織体制を強化する。

② 戦略立案（主なターゲット：民間企業・訪日外国人旅行者・国内旅行者等）

【将来の姿1】【将来の姿2】【将来の姿3】の実現のため、国内外の旅行者の増加、リピーターの確保と回遊性向上、認定地域での直接的な消費拡大を目指し、事業の実施結果を検証し、さらに効果的な施策につなげていく。実務担当者会議が中心となり、認定地域の地域プロデューサーと協力して国内外の旅行者増加に向けた商品開発を行うなど具体的な取組みを行っていく。

③ 人材育成（主なターゲット：ガイド団体・地域住民等）

【将来の姿1】【将来の姿3】の実現のため、地元ガイド対象の講座等を通じて、訪問者にストーリーを伝える仕組みをつくり、認定地域の受入体制を充実させる。⑤観光事業化と関連させて、認定ガイドが案内することで商品の付加価値が生まれる状態を目指す。また、⑥普及啓発で実施する、出前授業や講演、講座、各団体への研修等によって、地域住民の日本遺産ストーリーと構成文化財に対する理解を深め、シビックプライドの醸成につなげる。

④ 整備（主なターゲット：文化財所有者・訪日外国人旅行者・国内旅行者等）

【将来の姿1】の実現のため、文化財部局が構成文化財美装化や修理への支援と解説板の整備を行うほか、観光部局や所有者、各民間企業がストーリーの多言語解説や便益施設等周辺整備に取組み、日本遺産を訪れたあらゆる人が感動できる環境を整えることを目指す。認定地域内の構成文化財をエリアで体験し、各地域の核となる構成文化財と日本遺産を紹介するガイダンスコーナーを基点としてエリアからエリアへと周遊を促す仕組みを整える。

⑤ 観光事業化（主なターゲット：観光客）

【将来の姿2】の実現のため、民間事業者と共同して旅行商品の開発、伝統工芸品の製造者や民俗芸能の団体、民間企業等と連携した商品開発を行い、日本遺産が地域の観光資源となることを目指す。⑦情報収集・発信の強化によって地域資源としての付加価値拡大と認知度向上を図り、旅行者の伊達な文化に感動できる仕組みづくりとリピーター増加を目指す。

⑥ 普及啓発（主なターゲット：認定地域の小中学生等）

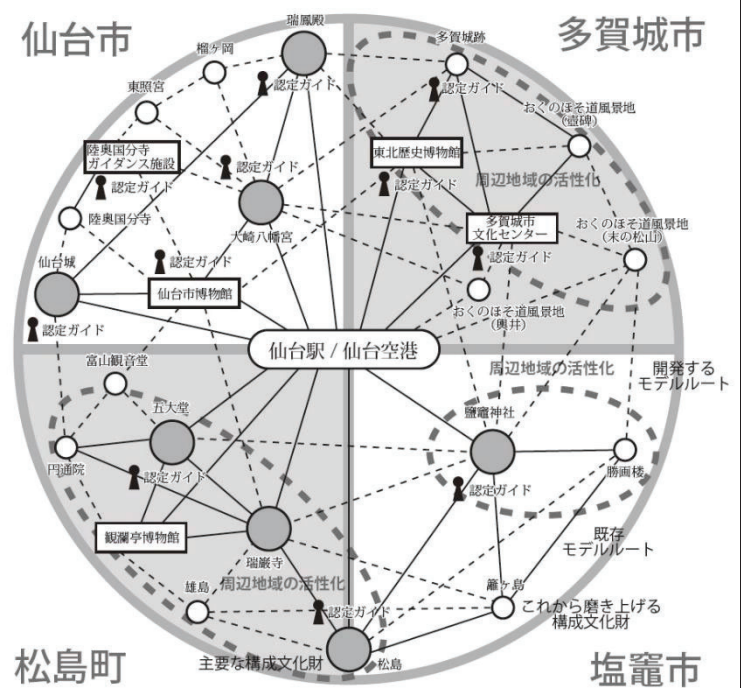
【将来の姿2】【将来の姿3】の実現のため、実行委員会が中心となって小中学生向け文化財見学ツアーや出前授業等を実施し、次世代に日本遺産のストーリーと文化財の価値を伝え、中長期的な文化財保護体制の確立を目指す。

⑦ 情報収集・発信（主なターゲット：外国人旅行者・国内旅行者・地域住民等）

【将来の姿1】【将来の姿2】の実現のため、行政・民間企業・地域住民が連携して、

国内外に向けた、伊達“DATE”に関する広報と反応等の収集活動（県海外事務所等の発信、SNS・公式HP・広報誌等の発信、フォローや発信数の多いSNSへコンテンツの提供等）、旅行会社等への働きかけに取組み、外国人観光客増加など交流人口拡大を目指す。

特にSNSを中心にした最新情報の発信とイベント等での広報活動を強化し、認知度向上につなげる。



(4) 実施体制

日本遺産を通じた地域活性化は、以下の実行委員会を中心とする体制により取組む。

実行委員会名称：「“伊達な文化”」魅力発信推進事業実行委員会
 <構成団体>

【宮城県】総務部広報課、経済商工観光部観光戦略課・新産業振興課・富県宮城推進室、教育庁総務課・文化財課（事務局）

【仙台市】文化観光局観光課、教育委員会文化財課

【塩竈市】産業建設部商工観光課、教育委員会生涯学習課

【多賀城市】企画経営部市民文化創造課・都市産業部都市計画課、教育委員会文化財課

【松島町】産業観光課、教育課

【民間企業・団体】（一社）東北観光推進機構（広域連携 DMO）、宮城県観光誘致協議会、（公社）宮城県観光連盟、（公財）仙台観光国際協会、塩竈市観光物産協会、多賀城市観光協会、（一社）松島観光協会（株）東日本旅客鉄道株式会社 東日本旅客鉄道株式会社東北本部マーケティング部地域連携ユニット（株）仙台国際空港株式会社、河北新報社事業局事業部（株）インアウトバウンド東北（地域連携 DMO）

実行委員会を官民協働の基盤として位置づけ、商工観光分野、教育分野の各構成団体による全体会で取組みの方向性と目標の設定を行う。この下には、ワーキンググループとそれらを繋ぐ実務担当者会議を設置する。

実務担当者会議は、行政関係者やグループリーダーの意見交換会の場として年間4～5回程度開催する。各構成団体から選出された実務担当者を事業プロジェクトチームとして位置づけ、戦略立案、情報発信、人材育成、体験プログラム造成、観光を主とした地域活性化にかかる諸事業を実施する。

<民間企業・団体の役割>

（公社）宮城県観光連盟、（公財）仙台観光国際協会	主に教育旅行誘致のため日本遺産を教育旅行ガイドブック等で紹介し、各団体事務局が受入窓口となる。
（株）東日本旅客鉄道株式会社東北本部マーケティング部地域連携ユニット、（株）仙台国際空港株式会社	認定地域へのアクセスや周遊で不可欠な交通インフラを担うほか、日本遺産認定地域の玄関口となる仙台駅と仙台国際空港や、首都圏、関西圏でのPR協力をを行う。
一社）東北観光推進機構（広域連携 DMO）、宮城県観光誘致協議会、河北新報社事業局事業部	国内外でのPRや誘致活動、メディアを通じた市民等への紹介活動に取り組む。
塩竈市観光物産協会、多賀城市観光協会、（一社）松島観光協会、仙台観光国際協会	物販施設の運営、各旅行客への対応、案内ガイドとの調整などに取り組む。
（株）インアウトバウンド東北（地域連携 DMO）	認定地域内での着地型周遊観光の整備、ツアー企画等の実施、地元企業との関係性構築や地域の観光地開発に取り組む。

(5) 日本遺産の取組を行う組織の自立・自走

実行委員会は、地域活性化の目標と方向性を確認・共有し、将来に向けた取組を検証しながら事業を推進する。また、各行政計画に位置づけることで、継続的な事業として行政的な担保を図る。

財源については、構成自治体の負担金、オリジナルグッズの販売収益、国庫補助の活用、ふるさと納税による寄付金やクラウドファンディングの活用など多様な財源確保の取組を行う。

長期的には、公的資金の依存度を下げた運営を目指し、オリジナルグッズの開発・販売による収益や、日本遺産の地域ブランド力を向上させて、企業の協力拡大を推進する。

(6) 構成文化財の保存と活用の好循環の創出に向けた取組

少子高齢化・過疎化の中で文化財保護の担い手が不足し、地域の文化財が放置される危機は、これから加速化していくことが想定される。

日本遺産は構成文化財をストーリーで繋ぐことで、これまであまり知られていなかった文化財も観光振興を軸とした地域活性化の中心に位置づけるもので、日本遺産による認知度向上が文化財保護に還元されるために、以下①～③の取組を重点的に行う。

① 日本遺産ブランド・知名度を活用した地域内における価値の創出

第一に構成文化財が地域で大切にされることが必要であることから、構成文化財についての市民講座、地元見学会など地域内での構成文化財の価値の再発見・創出に取組み、地域に日本遺産があることに誇りを持てるようにする。また、地域住民と講座等をきっかけとして意見交換を行い、構成文化財の候補やサブストーリーの掘り起こしを行う。

② 地域における文化財周辺環境改善行動の喚起

地域内にある構成文化財について価値を見出し、地域で守り伝える機運を高める。仙台城石垣クリーン大作戦、松島の藻場再生活動などこれまでの取組みも土台として、地域内で構成文化財の保護と日本遺産を通じたまちづくり機運の醸成を行う。

③ 旅行者など訪問者による寄付等を受け入れる環境の整備

来訪者が構成文化財や周辺環境、地域の取組みに感動する体験を得られることで、文化財保護に対する寄付行為など具体的なアクションと結びつけるため、ふるさと納税、クラウドファンディング、企業の社会貢献活動などを受け入れる環境を整備する。

(7) 地域活性化のために行う事業

(7) - 1 組織整備

(事業番号 1-A)

事業名	「“伊達”な文化」地域プレイヤー組織化事業		
概要	実行委員会と連携する地域プレイヤーとの関係構築に取り組み、また地域プレイヤーの組織化を進める。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	日本遺産を保存する地域プレイヤーの組織化	市民が日本遺産構成文化財を自ら守り、後世に伝えていく地域プレイヤーとなるため、仙台城の石垣清掃（仙台城石垣クリーン大作戦）、松島の藻場再生活動等を継続的に開催する。また、地域ボランティアと協力したイベントの実施等、市民が地域プレイヤーとして参加するきっかけを提供する。	仙台市、塩竈市、多賀城市、松島町
②	日本遺産を紹介する地域プレイヤーの組織化	認定地域内の観光ガイド団体が地域プレイヤーとして相互に連携できる状態を目指して、年2回ガイド研修会を実施し、おもてなし力向上や、外部講師を招き研修を行う。また、研修を受けた地域プレイヤーが「認定ガイド」として活動できる組織体制を構築し、旅行会社や観光協会と連携してエリアを帯同できるガイドの活動の場を構築する。	宮城県、仙台観光国際協会、塩竈市観光物産協会、多賀城市観光協会、松島観光協会
③	実行委員会の組織整備・運営 (計画に基づく事業の企画・実施を行う組織の整備、PDCAサイクルをまわす仕組みの整備)	法人パートナー拡大により関係者を拡大した上で、実行委員会には、行政関係者やグループリーダーで事業の方向性を検討するワーキンググループと、具体的な進捗の意見交換と目標値確認を行う実務担当者会議を置き、年間4～5回程度開催する。また、実務担当者会議を各構成団体の事業プロジェクトチームとして位置づけ、諸事業を効果的に実施する。	宮城県、仙台市、塩竈市、多賀城市、松島町
④	協力団体の拡大	日本遺産事業について、商品開発の提案や広報の協力等を行う企業や団体について協力団体として組織し、事業実施について協力を得る。	宮城県
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	日本遺産認定ガイド養成講座を受講したガイドのうち、地域プレイヤーとして協力する人数		53
2023			53
2024			61
2025	認定ガイド等で協力する地域プレイヤーの人数		65
2026	認定ガイド等で協力する地域プレイヤーの人数		70

2027	認定ガイド等で協力する地域プレイヤーの人数	75
2028	認定ガイド等で協力する地域プレイヤーの人数	80
2029	認定ガイド等で協力する地域プレイヤーの人数	85
2030	認定ガイド等で協力する地域プレイヤーの人数	90
事業費	2025年度：100千円　2026年度：100千円　2027年度：100千円	
継続に向けた事業設計	①は市民の環境改善行動喚起と文化財保護双方にとって、長期的な地域住民の協力拡大を目指し、②はガイド間の知識・スキル共有と、今後の連携体制の構築を主眼としている。事業費については、会議の開催経費等について各自治体の施設の利用などで経費を抑え、自治体からの負担金で実施する。	
事業費	2028年度：100千円　2029年度：100千円　2030年度：100千円	
継続に向けた事業設計	事業費については各自治体の施設の利用などで経費を抑え、自治体からの負担金で継続する。	

(7) - 2 戦略立案			
(事業番号2-A)			
事業名	実効性の高い事業の立案と行政計画への反映		
概要	地域プロデューサー等と協力して、実効性の高い事業を考案し、各種行政計画に位置付ける。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	従前の実施事業の検証	日本遺産事業の実績と効果を、7-A④で調査・フィードバックしたうえで、(4)で設定した実行委員会のワーキンググループと実務担当者会議により、日本遺産を地域ブランドとして活用し、活性化する事業について具体的に計画し、実施していく。	宮城県ほか全構成団体
②	実効性の高い事業の立案	地域プロデューサーと協力して、従前の事業の検証をもとに実効性の高い事業を立案する。構成市町を中心として、食や酒など新たな関連する文化財、地域の特産品と組み合わせた事業やサブストーリーを検討し、ストーリーに厚みを持たせることを目指す。	宮城県・仙台市・塩竈市・多賀城市・松島町
③	各種計画への位置づけ	各観光振興計画や日本遺産構成文化財保存活用計画等で、具体的な方策等を示す。	宮城県・仙台市・塩竈市・多賀城市・松島町
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	行政計画への位置付け数(件)		9

2023		10
2024		10
2025	行政計画への位置付け数（件）	10
2026	行政計画への位置付け数（件）	11
2027	行政計画への位置付け数（件）	11
2028	行政計画への位置付け数（件）	11
2029	行政計画への位置付け数（件）	11
2030	行政計画への位置付け数（件）	11
事業費	2025年度：100千円　2026年度：100千円　2027年度：100千円	
継続に向けた事業設計	実行委員会構成員が地域活性化の目標と方向性を確認・共有し、将来に向けた取組みの検証を行う。各行政計画に位置づけることで、自治体の負担金による実行委員会の事業費を確保する。	
事業費	2028年度：100千円　2029年度：100千円　2030年度：100千円	
継続に向けた事業設計	各行政計画に位置づけることで、自治体の負担金による実行委員会の事業費を継続的に確保する。	

(7) - 3 人材育成

(事業番号3-A)

事業名	日本遺産「“伊達”な文化」地域プレイヤー養成事業
概要	認定地域内の観光・文化財ガイドや民間企業等が、日本遺産の地域プレイヤーとして必要な知識とスキルを身につけ、来訪者が満足できる環境を構築するために必要な人材育成を行う。

	取組名	取組内容	実施主体
①	「“伊達”な文化」出前講座 (新たな地域プレイヤーの探索)	認定地域の誰もが「“伊達”な文化」について語れるようになり、最終的には、認定地域の市民が誇りを持って日本遺産の地域プレイヤーとなることを目指して、「“伊達”な文化」の特徴と歴史、日本遺産について民間企業の研修等で普及を行う。	宮城県
②	日本遺産認定ガイド養成 (日本遺産地域プレイヤーの育成)	日本遺産ストーリーを軸とした地域の魅力を発信していく日本遺産地域プレイヤーを養成する。長期的には認定ガイド個人が日本遺産の魅力の一つになることを目指す。認定ガイドは単に講座を受けるだけではなく、必要な知識とホスピタリティが伴っているかを確認する仕組みを整え、点では面で案内できるガイドの育成に取り組む。	宮城県・仙台市・塩竈市・多賀城市・松島町
③	日本遺産教育旅行誘致	②ガイド養成のアウトプットとして、教育旅行で認定ガイドによる日本遺産ストーリーの紹介を行い、ガイド団体が次世代へのストーリーを伝える活動を通じて収益に繋げる。	宮城県観光連盟、仙台観光国際協会
④	日本遺産認定ガイド活動支援	②ガイド養成のアウトプットとして、一般旅行者から「あの認定ガイドから話を聞きたい!」と思われる人材を発掘、育成し、各旅行会社ツアーとのマッチングや収益事業化のサポートなど、ガイド活動の支援を行う。	宮城県観光連盟、仙台観光国際協会

年度	事業評価指標	実績値・目標値	
2022	認定ガイドがストーリーを紹介した回数(回)	283	
2023		365	
2024		350	
2025	認定ガイドがストーリーを紹介した回数(回)	350	
2026	認定ガイドがストーリーを紹介した回数(回)	360	
2027	認定ガイドがストーリーを紹介した回数(回)	370	
2028	認定ガイドがストーリーを紹介した回数(回)	380	
2029	認定ガイドがストーリーを紹介した回数(回)	390	
2030	認定ガイドがストーリーを紹介した回数(回)	400	
事業費	2025年度:1000千円	2026年度:100千円	2027年度:100千円

継続に向けた事業設計	事業費については、認定ガイドの育成と受け入れ体制強化について、2025 年度は、ふるさと納税や補助金等の活用で事業費を確保する。それ以後は、行政が管理する施設を利用して講座を行うなど経費抑制に努め、事業費は自治体の負担金及び日本遺産事業収益を充てる。
事業費	2028 年度：100 千円 2029 年度：100 千円 2030 年度：100 千円
継続に向けた事業設計	行政が管理する施設を利用して講座を行うなど経費抑制に努め、事業費は自治体の負担金及び日本遺産事業収益を充てる。

(7) - 4 整備

(事業番号4-A)

事業名	「“伊達”な文化」認定地域“仙台”の魅力創出		
概要	認定地域・仙台市は、政宗が築いた仙台城跡があり、ゆかりの文化財も多く、ストーリーを体感できる中心地域で、政令指定都市として交通網が発達している。したがって、この認定地域では、将来の姿1「伊達な文化が感動できる仕組み・体制」を実現するため、修理・復元・美装化・防災機能向上の実施や展示施設・ガイダンスコーナーの設置、認定ガイドの配置によって、ストーリーと構成文化財の伝承と魅力を分かりやすく伝える重点地域となる。あわせて、日本遺産を周遊する環境の利便性を向上させてストーリー理解度を高め、周遊の快適性を高めることでリピーター拡大に努める。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	史跡仙台城跡の整備 (構成文化財整備)	歴史的な背景を踏まえた本丸跡からの眺望と、自然環境と調和した城郭らしい景観を「政宗ビュー」と表現し、その実現を整備の目標としている。仙台を象徴する観光拠点でもある史跡仙台城跡の価値について、来訪者が理解を深められるよう整備を進め、来訪者が仙台城を体感できる環境を整備する。	仙台市
②	仙台市博物館・仙臺緑彩館等のガイダンス機能整備	構成文化財の多くを所蔵する仙台市博物館とそれに隣接する仙臺緑彩館等においてデジタルサイネージやパネル、パンフレット等の設置によってストーリーの紹介と日本遺産構成文化財関連商品の販売などを行い、定期的に関連イベントを開催するなど、ガイダンス機能を整備する。	仙台市
③	アクセス・周遊環境の維持拡大	認定地域へのアクセスや周遊の中心となる仙台駅、仙台国際空港をはじめ、日本遺産ストーリーを巡る上で不可欠な交通インフラを担い、誘客の拡大と回遊性の向上を図る。	東日本旅客鉄道株式会社仙台支社 営業部観光推進室、仙台国際空港株式会社
④	周遊環境整備(ストーリー理解促進と快適性向上)	レンタサイクル“DATE BIKE(ダテバイク)”やWi-Fi設備などの充実化を進めて、ストーリーを巡る手段を旅行者に提供し、快適性の向上によってリピーター拡大を図る。市営バス・地下鉄を活用して、構成文化財を巡る環境の整備を進める。	仙台市
⑤	日本遺産認定ガイド活動支援	(7)-3②のアウトプットとして、一般旅行者から「あの認定ガイドから話を聞きたい!」と思われる人材を発掘・育成し、各旅行会社ツアーとの	宮城県・仙台市

		マッチングや収益事業化のサポートなど、ガイド活動の支援を行う。	
⑥	訪日旅行者・国内旅行者誘致	広域連携 DMO とともに、ウェブサイトや SNS 等により、海外・国内に向けて情報発信を行い、認定地域への旅行者誘致を行う。	東北観光推進機構（広域連携 DMO）、宮城県観光誘致協議会

年度	事業評価指標	実績値・目標値
2022	構成文化財（仙台城跡・仙台市博物館・瑞鳳殿） 来訪者数(千人)	508
2023		832
2024		716
2025	構成文化財（仙台城跡・仙台市博物館・瑞鳳殿） 来訪者数(千人)	832
2026	構成文化財（仙台城跡・仙台市博物館・瑞鳳殿） 来訪者数(千人)	837
2027	構成文化財（仙台城跡・仙台市博物館・瑞鳳殿） 来訪者数(千人)	842
2028	構成文化財（仙台城跡・仙台市博物館・瑞鳳殿） 来訪者数(千人)	847
2029	構成文化財（仙台城跡・仙台市博物館・瑞鳳殿） 来訪者数(千人)	852
2030	構成文化財（仙台城跡・仙台市博物館・瑞鳳殿） 来訪者数(千人)	857

事業費	2025 年度：25,000 千円 2026 年度：26,000 千円 2027 年度：23,500 千円
継続に向けた事業設計	日本遺産構成文化財の整備は、事業額の一部で国の補助金やクラウドファンディング等の寄付を活用して資金確保を行い、日本遺産の持続的な維持に努める。
事業費	2028 年度：17,500 千円 2029 年度：17,000 千円 2030 年度：6,200 千円
継続に向けた事業設計	日本遺産構成文化財の整備は、事業額の一部で国の補助金やクラウドファンディング等の寄付を活用して資金確保を行い、日本遺産の持続的な維持に努める。

(事業番号 4-B)

事業名	「“伊達”な文化」認定地域“多賀城”の魅力創出		
概要	将来の姿 1 「伊達な文化が感動できる仕組み・体制」を実現するため、認定地域多賀城市に所在する構成文化財の調査・整備を通じて魅力の向上を図り、その上で普及啓発、観光振興により、誇りの喚起と地域経済の活性化を図る。		
	取組名	取組内容	実施主体

①	構成文化財・多賀城跡 調査事業（調査研究・サブストーリー抽出）	現在、未整備範囲がある多賀城跡の魅力を生み出し、ストーリーに深みを持たせるため、発掘調査を行う。調査研究をもとに建物等の復元整備を進め、様々な目的で活用できる空間を目指す。	宮城県
②	構成文化財・多賀城南門等復元整備 （構成文化財整備）	多賀城跡附寺跡の外郭南門を原寸大で復元整備するとともにガイダンス施設の整備を進め、文化交流拠点として有効に活用されることを目指す。事業には、復元を用途目的とするふるさと納税や寄付を一部充当する。	多賀城市
③	歴史的食文化体験学習 （学校連携）	将来の担い手となる市内小学生の総合学習の一環として、構成文化財・多賀城跡の中で多賀城に係わる古代米（しろのむらさき）を栽培、食体験を実施する。  （日本遺産の中で特産品の古代米づくり）	多賀城市・多賀城市観光協会
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022			72,960
2023	構成文化財（多賀城跡）来訪者数（人）		74,658
2024			72,274
2025	構成文化財（多賀城跡）来訪者数（人）		73,000
2026	構成文化財（多賀城跡）来訪者数（人）		73,100
2027	構成文化財（多賀城跡）来訪者数（人）		73,200
2028	構成文化財（多賀城跡）来訪者数（人）		73,300
2029	構成文化財（多賀城跡）来訪者数（人）		73,400
2030	構成文化財（多賀城跡）来訪者数（人）		73,500
事業費	2025年：27,000千円 2026年：20,000千円 2027年：10,000千円		
継続に向けた事業設計	2024年に終了した多賀城創建1300年記念事業によって増加した観光客の落ち込みが予想されるが、整備を進めることでリピーターを獲得することを目指す。事業費の一部でふるさと納税の寄附金の充当（②多賀城南門等復元整備）を行い、国庫補助金を活用する。認定地域外からの財源獲得の手法を拡大し、日本遺産の整備と持続的な維持に努める。		
事業費	2028年：10,000千円 2029年：10,000千円 2030年：10,000千円		

継続に向けた事業設計	事業費の一部で国庫補助金を活用する。認定地域外からの財源獲得の手法を拡大し、日本遺産の整備と持続的な維持に努める。
------------	---

(事業番号 4-C)

事業名	「“伊達”な文化」認定地域“塩竈・松島”の魅力創出
概要	構成文化財がまとまって所在する塩竈・松島地域で、世界の誰もがストーリーに感動して楽しめるようにするため、構成文化財並びに周辺環境と、観光機能強化を図る。また海上輸送路の整備によって広域に周遊する仕組みをつくる。

	取組名	取組内容	実施主体
①	浦戸諸島巡りの環境整備 (サブストーリーの抽出)	松島の中に位置する浦戸諸島で、豊かな自然や歴史を体感できるように島をつなぐ遊覧船や島内の通路を整備し、魅力を発信する。観光客の市内滞留時間を増加させる。	塩竈市
②	構成文化財・勝画楼保存・活用の推進(構成文化財整備)	文化財保存活用地域計画において勝画楼の保存と活用を位置づけ、建物・敷地の維持管理、建物現況調査と修復工事に向けたプランニングを行う。	塩竈市
③	「門前町の老舗めぐり」(経済効果創出)	構成文化財・鹽竈神社参拝と門前町食べ歩きや老舗店舗巡りを組み合わせて「日本遺産とおいしいもの」のまちとしてのブランディングを進める。まちの回遊性を高め、観光消費につなげる。	塩竈市・塩竈市観光物産協会
④	観光施設維持管理事業(観光機能強化)	公衆トイレや公園などの維持管理、樹木剪定業務や観光施設修繕等を行う。	松島町・宮城県
⑤	一般旅行客誘客	国内旅行客をターゲットとして、松島湾周遊体験や瑞巖寺など構成文化財と座禅・数珠づくりといった体験、温泉、特産品を活用したグルメ等を組み合わせ、プロモーションを行う。また、世界遺産・平泉と広域での誘客促進を図る。	松島町・松島観光協会・インアウトバウンド東北(DMO)

年	事業評価指標	実績値・目標値
2022年	松島の年間宿泊者数(千人)	413
2023年		503
2024年		357
2025年	松島の年間宿泊者数(千人)	450
2026年	松島の年間宿泊者数(千人)	451
2027年	松島の年間宿泊者数(千人)	452
2028年	松島の年間宿泊者数(千人)	453
2029年	松島の年間宿泊者数(千人)	454

2030年	松島の年間宿泊者数（千人）	455
事業費	2025年：26,585千円 2023年：26,585千円 2024年：26,585千円	
継続に向けた事業設計	③では、構成文化財への訪問に周辺店舗への立ち寄りを加えることで、滞在時間の増加と消費拡大による地域への経済効果を生み出す。⑤では、宿泊者受入数を絞って、客単価を上げて旅行プランを充実させる取組みが進んでおり、満足度向上を目指している。また、みちのく潮風トレイルなど他の観光資源の活用も行っている。	
事業費	2022年：26,585千円 2023年：26,585千円 2024年：26,585千円	
継続に向けた事業設計	事業費については、自治体の予算で位置付けられているものが多い。整備された交通・公共施設を有効活用する。②の修理・整備については、自治体予算と国庫補助の活用等によって確保する。	

(事業番号4-D)

事業名	「“伊達”な文化」周遊促進事業		
概要	認定地域への来訪者や地域住民がまちなかを歩いている時やビルに入ったとき、何気なく日本遺産のストーリーに触れ、理解が深まるようにするためパネル展を認定地域内で実施する。また、日本遺産のガイダンスコーナーを日本遺産認定地域に複数設定して、ストーリー全体と構成文化財を紹介することで来訪者の周遊を促進する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	日本遺産ガイダンスコーナーの整備 (ストーリーの全体像を伝える拠点づくり)	認定地域内でストーリーを伝える仕組みを確立するため、日本遺産紹介パネルとデジタルサイネージ等を活用し、地域の核となる施設で日本遺産のストーリー全体を紹介するガイダンスコーナーを整備する。	宮城県・仙台市・塩竈市・多賀城市・松島町・協力団体
②	パネル・デジタルサイネージによる展示	認定地域内でストーリーを広く伝える目的で、日本遺産紹介パネルとデジタルサイネージを活用し、交通機関・商業施設・公共施設等で展示・放映を行う。	宮城県・仙台市・塩竈市・多賀城市・松島町・協力団体
③	ストーリーを伝える多言語パンフレット整備	①と共に、日本遺産ストーリーを紹介する多言語パンフレットを交通機関・商業・宿泊・公共施設等に設置する。	宮城県・仙台市・塩竈市・多賀城市・松島町・協力団体
④	文化財カードの製作・配布	構成文化財をテーマにした文化財カードを製作する。構成文化財の見学または日本遺産関連企画に参加することでカードを配布し、周遊促進する。	宮城県・仙台市・塩竈市・多賀城市・松島町
年	事業評価指標		実績値・目標値
2022年	パネル展開催件数(件) (※設置期間・器材数の制限により年8件が平均的)		8
2023年			8
2024年			8

2025年	パネル展開催件数(件)	8
2026年	パネル展開催件数(件)	8
2027年	パネル展開催件数(件)	8
2028年	パネル展開催件数(件)	8
2029年	パネル展開催件数(件)	8
2030年	パネル展開催件数(件)	8
事業費	2025年：300千円 2026年：300千円 2027年：300千円	
継続に向けた事業設計	日本遺産のガイダンスコーナーで周遊を促進し、パネル展を様々な場所で開催することで日本遺産の認知度と理解の向上につなげる。	
事業費	2028年：300千円 2029年：300千円 2030年：300千円	
継続に向けた事業設計	事業費については、自治体負担金やふるさと納税等の寄付金によって確保する。また、協力団体からの支援として、商業施設やロビー等を借りてパネル展を開催し、様々な層の認知度向上につなげる。	

(7) - 5 観光事業化

(事業番号5-A)

事業名	「“伊達”な文化」の体験プログラム整備		
概要	来訪者が日本遺産のストーリーを深く理解することで満足度の高い経験とするために、ガイドツアーの販売等を行う。また、満足度を高める伝統工芸品等の日本遺産関連商品、飲食、宿泊等について、地域の持ち味を活かした商品の提供を行う。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	周遊ツーリズム・体験型観光コンテンツ造成	松島湾や仙台城跡を中心に仙台圏域の周遊促進のためのツアー造成、体験型観光コンテンツの造成（歴史を感じる街歩き・語り部クルーズ・漁業体験等）を行う。また、伊達な文化との関係が深い認定地域の日本酒や地域の名物料理に焦点を当てて、訪日外国人を対象としたグルメ体験と構成文化財巡りのパッケージ化等を進める。	宮城県・仙台市・塩竈市・多賀城市・松島町・インアウトバウンド東北（DMO）
②	周遊ツーリズム・体験型観光プロモーション	認定地域の宿泊の誘導・促進に繋げるプロモーションを海外・国内各地で行う。	宮城県・インアウトバウンド東北（DMO）
③	ガイドコンテンツ企画の製作と販売	観光連盟や観光協会等と連携し、ガイドが帯同することで日本遺産を面で体験できる旅行プランの開発を行い、民間企業と協力して商品化する。また、ガイドについては、日本遺産のストーリーの紹介の仕方、解説の手引き等を作成してサポートする。	宮城県・宮城県観光連盟・東北観光推進機構・仙台観光国際協会・塩竈市観光物産協会・多賀城市観光協会・松島観光協会・インアウトバウンド東北（DMO）
④	ストーリー関連商品の発売（商品開発・販売促進）	①～③で体験した旅行客が、おみやげとして日本遺産関連商品を持ち帰ることで経済効果を高めるとともに、さらなる誘客拡大につなげる。認定地域内に所在する企業の日本遺産関連商品開発を活性化させるため、企画・調整・広報等、販売等のサポートを行う。日本遺産の紹介やイベント開催と商品の販売を連携し、関連商品の販売を促進する。	宮城県・仙台市・法人サポーター
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	プログラムの参加者（人）・関連商品の販売数（個）		70
2023			1099
2024			710

2025	ツアー参加者（人）・関連商品の販売数（個）	710
2026	ツアー参加者（人）・関連商品の販売数（個）	710
2027	ツアー参加者（人）・関連商品の販売数（個）	710
2028	ツアー参加者（人）・関連商品の販売数（個）	710
2029	ツアー参加者（人）・関連商品の販売数（個）	710
2030	ツアー参加者（人）・関連商品の販売数（個）	710
事業費	2025年度：600千円 2026年度：100千円 2027年度：100千円	
継続に向けた事業設計	ガイドツアーについては、参加者の満足度は高いものの、参加者数が伸び悩んでいることから、広報等に大きな課題があると捉えている。このため、観光事業者等から広報の在り方等について助言をもらい、改善を図る。事業費については、構成自治体におけるふるさと納税や、国の補助金を活用する。	
事業費	2028年度：100千円 2026年度：100千円 2027年度：100千円	
継続に向けた事業設計	自治体負担金とオリジナルグッズの収益によって事業を継続し、ふるさと納税等の寄付金、補助金の活用も検討する。	

(7) - 6 普及啓発

(事業番号6-A)

事業名	日本遺産構成文化財探検隊☆セタシマクエスト！		
概要	日本遺産への理解を深め、中長期的な文化財保護体制の確立を目指し、小中学生向け日本遺産見学プログラムとして、域内の小中学生が地元の文化財を実際に観てストーリーを理解する機会を提供する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	教育体験プログラムの実施	学芸員・文化財担当職員や日本遺産認定ガイドと共に、日本遺産構成文化財を巡って様々なミッションを解決し、ストーリーを学習する。探求型の学習プログラムを実施することで楽しく理解出来ることに配慮し、若い世代の日本遺産についての認知度向上と誇りに思う心を育む。構成市町の連携企画とすることで、参加者の周遊を促進する。	宮城県・仙台市・塩竈市・多賀城市・松島町
②			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022			98
2023	学習体験をした生徒が理解したと答える割合(%)		97
2024			96
2025	学習体験をした生徒が理解したと答える割合(%)		90
2026	学習体験をした生徒が理解したと答える割合(%)		90
2027	学習体験をした生徒が理解したと答える割合(%)		90
2028	学習体験をした生徒が理解したと答える割合(%)		90
2029	学習体験をした生徒が理解したと答える割合(%)		90
2030	学習体験をした生徒が理解したと答える割合(%)		90
事業費	2025年度：100千円 2026年度：100千円 2027年度：100千円		
継続に向けた事業設計	「地元が無理なく持続できる・地域の子供はだれでも参加できる」ことを前提に参加費を低く抑え、日本遺産認定ガイド(事業番号3-A)や地元の学芸員・文化財担当職員が協力して実施する。広報については地域の小中学校や行政が連携して教室でのチラシ配布、行政の広報誌やSNSで行う。		
事業費	2028年度：100千円 2029年度：100千円 2030年度：100千円		
継続に向けた事業設計	2025年度～2027年度の事業効果を検証し、プログラム内容を改善しながら事業を実施する。		

(事業番号6-B)

事業名	「“伊達”な文化」教育旅行誘致事業
-----	-------------------

概要	教育プログラムの地域外観光客への提供を目的として、日本遺産の周遊とストーリーを体験する教育体験プログラムを整備して、教育旅行の誘致を行う。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	教育体験プログラムの整備	構成文化財・松島や多賀城跡などについて、ニーズを反映させつつ、学習コンテンツと、体験型観光コンテンツ（歴史を感じる松島街歩き等）の造成を行う。	宮城県・インアウトバウンド仙台・松島（DMO）
②	日本遺産教育旅行誘致	「宮城県教育旅行ガイドブック」における日本遺産特集の掲載と受入れのための連絡窓口の開設による教育旅行の誘致を行う。	宮城県観光連盟、仙台観光国際協会
③	伊達な広域観光推進協議会による教育旅行誘致	域外の学校の教育旅行を誘致するため、仙台市の「仙台城跡」「瑞鳳殿」「大崎八幡宮」、松島町の「瑞巖寺」、塩竈市の「鹽竈神社」や、日本遺産「みちのく GOLD 浪漫」構成文化財である平泉町の「中尊寺金色堂」を含む学習コンテンツやモデルコースの紹介等、旅行会社や学校等へのPRを実施する。	伊達な広域観光推進協議会
④	松島町教育旅行誘致	県内外の私立学校及び公立学校の教育旅行を誘致するため、県立松島高等学校観光科や町内事業者、近隣自治体と連携した受入体制の整備、日本遺産ストーリーについて対話的で深い学びができる仕組みづくり、SDGs や探究学習をテーマとしたコンテンツ整備、旅行会社や教育機関等へのセールス活動等を実施する。	松島町・松島観光協会
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	認定地域の年間教育旅行宿泊人数（人）		50,856
2023			60,263
2024			63,886
2025	認定地域の年間教育旅行宿泊人数（人）		63,500
2026	認定地域の年間教育旅行宿泊人数（人）		60,550
2027	認定地域の年間教育旅行宿泊人数（人）		60,600
2028	認定地域の年間教育旅行宿泊人数（人）		60,650
2029	認定地域の年間教育旅行宿泊人数（人）		60,700
2030	認定地域の年間教育旅行宿泊人数（人）		60,750
事業費	2025年：500千円　2026年：500千円　2027年：500千円		
継続に向けた事業設計	行政の観光部局と教育委員会が連携し、県外の学校に向けたプロモーションを展開するほか、（7）－7 情報編集・発信の事業で発信する。また、受入体制は人材育成で行うガイド養成講座のアウトプットと位置づける。事業費については、各実施主体の業務に落とし込まれるため、それぞれの予算で実施する。		

事業費	2028年：500千円 2029年：500千円 2030年：500千円
継続に向けた事業設計	2025年度～2027年度の教育旅行の受け入れ数と宿泊数を検証し、教育旅行の実施体制の変化などを検証しながらプロモーションに取り組む。

(事業番号6-C)

事業名	「“伊達”な文化」地域の魅力発見！事業		
概要	地域にのこる有形・無形の文化財を、日本遺産を通して地域が再発見し、地域の誇りにつなげるための取組みを行う。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	仙台城「登城路」への挑戦（学校教育との連携）	小学校を対象として学芸員と一緒に仙台城について出前授業・現地見学を行い、ストーリーを伝える。	仙台市
②	民俗芸能のつどい開催（地域を巻き込んだ継続イベント）	仙台藩とのつながりが深い民俗芸能を市民に広く認知してもらうため、「民俗芸能のつどい」を毎年1回開催する。また、公演映像を収録したDVDを図書館に配架するほか、公演ダイジェスト版を仙台市のYouTubeチャンネルで公開するなど、映像のアーカイブ化を進めるとともに、その価値や魅力の普及啓発を促進する。	仙台市
③	塩竈学まちづくり学習（地域・民間を巻き込むための普及啓発）	市民が自然や歴史・文化・まち並み景観・環境等から、まちの新しい個性や魅力を創出し、まちづくりを推進するため日本遺産ストーリーを伝えるシンポジウムや講座を開催する。	塩竈市
④	多賀城の歴史を体感するイベントの開催（観光まちづくり推進事業）	事業番号4-B②で造成した特別史跡多賀城跡附寺跡と壺の碑（多賀城碑）に係る文化イベントを実施し、古代から和歌に詠まれた場所である歴史や、仙台藩が歌枕の地の整備と保護を進め、全国に広まったストーリーを感じてもらう。「ことばのアートプロジェクト 俳句編」や、国宝「多賀城碑」に関連するプログラムを検討。また、市内在住の俳人とともに若者を対象とした俳句のワークショップを実施予定。	多賀城市
⑤	松島まるごと学（学校教育との連携）	町内小学校の授業のとして学芸員と一緒に構成文化財・瑞巖寺や富山観音・円通院霊屋などで出前授業・現地見学を行い、ストーリーを伝える。また、歴史的建造物の中で坐禅体験を行うことを通して“伊達”な文化の一端に触れる。	松島町・小中学校

⑥	「“伊達”な文化」出前講座	民間企業や地域団体に日本遺産のストーリーと特徴、取組みについて出前講座を行い、認知度向上につなげる。(事業番号3-A①と関連)	宮城県
年度	事業評価指標	実績値・目標値	
2022	観客・参加者の満足度(%)	93	
2023		92	
2024		92	
2025	観客・参加者の満足度(%)	90	
2026	観客・参加者の満足度(%)	90	
2027	観客・参加者の満足度(%)	90	
2028	観客・参加者の満足度(%)	90	
2029	観客・参加者の満足度(%)	90	
2030	観客・参加者の満足度(%)	90	
事業費	2025年：1070千円 2026年：1070千円 2027年：1070千円		
継続に向けた事業設計	地域に定着している事業も多いことから、行政面での事業継続と予算の確保ができています。		
事業費	2028年：1070千円 2029年：1070千円 2030年：1070千円		
継続に向けた事業設計	行政面での事業継続と予算の確保できているが、効果検証を行い、常に事業改善に取り組む。		

(7) - 7 情報編集・発信

(事業番号7-A)

事業名	伊達“DATE”の魅力の世界へ発信事業
概要	日本遺産ストーリーの魅力とともに、(7) - 5 観光事業化や (7) - 6 普及啓発の各事業を国内外に発信し、認知度向上と誘客拡大を図る。

	取組名	取組内容	実施主体
①	メディアや公式ウェブサイト・印刷物を通じた情報発信	国内外を対象として認定地域への誘客拡大を図る目的で、各メディア・広報誌・メールマガジン・情報紙等で伊達な文化を紹介し、認知度の向上を図る。紹介にあたっては、記事で公式HPへ誘導し、ストーリーの理解と来訪手段の紹介に繋げる。	宮城県・東北観光推進機構（広域連携DMO）、宮城県観光誘致協議会
②	伊達な文化公式SNSによる魅力発信（継続的・双方向的な発信手段整備）	①・③の情報発信と併せて、SNS（Facebook・Instagram）による旅行者目線でのサブストーリーや、メジャーではないモデルルートといった、自分だけの旅をつくれる情報の発信を行い、認定地域全域に経済効果が波及することを目指す。①・③の取組みに対して、②SNSは個人で旅行する若者を主なターゲットとし、共感を得やすい綺麗な写真（伊達な文化を表す豪華絢爛、松島の景色等）と共通するハッシュタグを使用し、閲覧とフォロワー獲得を促進する。また投稿欄には伊達な文化公式ウェブサイトページ（近隣観光情報・グーグルマップ併設）へのリンクを貼ることで、シェア等による瞬発的な不特定多数への拡散と現地への誘客を目指す。	宮城県
③	多言語解説板の改良（周辺文化財情報の追加）	現地で旅行客が周辺にも魅力的な構成文化財があることに気づくことで、回遊性と滞在時間の増加につなげるため、多言語解説板に周辺の日本遺産構成文化財情報を追加する。追加手段としては、地図情報の直接貼り付け（参考写真）か、②に誘導するQRコード等を検討する。	宮城県
④	反応・反響調査の実施	効果的な発信を行うため、①～③の取組みによる発信を分析し、改善を図る。また反応・反響のデータは(7) - 2 戦略立案で活用する。	宮城県

年度	事業評価指標	実績値・目標値
2022	公式SNSのフォロワー数の合計（回）・公式webサイトの閲覧数（回）	474・129,363
2023		848・142,509
2024		1,099・136,304
2025	公式SNSのフォロワー数の合計（回）・公式webサイトの閲覧数（回）	1,100・137,000

2026	公式 SNS のフォロワー数の合計（回）・公式 web サイトの閲覧数（回）	1,150・137,050
2027	公式 SNS のフォロワー数の合計（回）・公式 web サイトの閲覧数（回）	1,200・137,100
2028	公式 SNS のフォロワー数の合計（回）・公式 web サイトの閲覧数（回）	1,250・137,150
2029	公式 SNS のフォロワー数の合計（回）・公式 web サイトの閲覧数（回）	1,300・137,200
2030	公式 SNS のフォロワー数の合計（回）・公式 web サイトの閲覧数（回）	1,350・137,250
事業費	2025 年度：55 千円 2026 年度：55 千円 2027 年度：55 千円	
継続に向けた事業設計	認定地域への誘客拡大は県機関を継続的な海外発信手段の基軸と位置づけ、民間団体の協力拡大による多様なチャンネルからの日本遺産の紹介と、SNS による発信を継続的に行う。事業については行政機関、観光誘致協議会等の業務の中に位置づけられており、事業費については公式 web サイト維持費に自治体の負担金を充て、そのほかの情報発信については各組織でそれぞれ負担する。	
事業費	2028 年度：55 千円 2029 年度：55 千円 2030 年度：55 千円	
継続に向けた事業設計	事業費については公式 web サイト維持費に自治体の負担金を充て、そのほかの情報発信については各組織でそれぞれ負担する。	